

【評価実施概要】

事業所番号	2774900555
法人名	有限会社 ケアプラザ
事業所名	ケアプラザ れんげの里
所在地	大阪府富田林市向陽台一丁目4番16号 (電話) 0721-29-6164
評価機関名	特定非営利活動法人 評価機関あんしん
所在地	大阪府岸和田市三田町1797
訪問調査日	平成21年6月4日

【情報提供票より】 (平成21年6月4日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 1月 1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	17人	常勤	10人, 非常勤 7人, 常勤換算 12.2人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	2階建ての	1階～2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000～60,000 円	その他の経費(月額)	40,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		2,000 円	

(4) 利用者の概要(平成21年6月4日現在)

利用者人数	17名	男性	5名	女性	12名	
要介護1	1名	要介護2	1名			
要介護3	5名	要介護4	6名			
要介護5	4名	要支援2				
年齢	平均	84歳	最低	79歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	今城クリニック、芝本クリニック、くまざきクリニック
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「ケアプラザ れんげの里」は近鉄河内長野線富田林駅から車で約10分ほどの高台にあり、静かな住宅街の緑豊かな自然に恵まれたグループホームである。隣接する提携医療機関とは24時間の対応が可能であり、緊急時には安心感がある。地域と家族の理解を深めつつ利用者の意志及び人格を尊重し、その人のリズムに合わせてゆったりと見守るケアを提供する事を運営の方針にしている。開設7年を経て利用者の身体的機能の低下、認知症の進行などが顕著になるなかで、職員は一人ひとりに寄り添いながら個別のケアに取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価の課題は、市町村との連携、災害時の地域住民の協力、水分摂取量の記録であった。これらについて、管理者が積極的に市を訪問し情報交換を、災害対策については運営推進会議において地域住民の協力が得られるよう取り組み始めている。また、水分摂取量を把握し日々の生活記録表に記録するなどの対応をしている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者と職員は外部評価の意義を理解し、協力して意見を集約して自己評価を行っている。評価結果についてはミーティングで検討し改善に向けた具体的な取り組みを行っている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は現在3ヶ月に1回開催しているが、今後は2ヶ月に1回の開催を予定している。家族代表、地区代表、地域住民代表、市町村・地域包括支援センターの職員などが参加している。事業所の活動や利用者の状況などの報告と共に、災害時の地域住民の協力体制を依頼するなど、参加メンバーの意見交換も出来てきている。今後は外部評価の取り組み状況を報告していくことも期待される。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 全ての家族は月に1回以上必ず面会に来ている。その都度利用者の日々の暮らしや健康状態、金銭管理、職員の異動などを伝えている。利用者の誕生日には行事などの写真入りの手書きの「れんげだより」を手渡している。特に第2日曜日は「家族会の日」として意向などの聴取に努めている。聴取した意向などはミーティングで全職員に伝えサービスの向上につなげている。介護相談員を受け入れている。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	地域の自治会に加入し、役員も務めている。盆踊り、お茶会、清掃、花火大会など地域の行事に参加して地元の人々と交流している。管理者は地域の親睦会に参加して普段から人間関係を築く努力をしている。様々なボランティアと交流しておりその訪問を利用者が楽しみにしている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホーム「ケアプラザれんげの里」では、家族と地域の方々の理解を深めつつ、利用者の意志及び人格を尊重し、その人らしい生活を支えていくために、日々の暮らしに密着したわかりやすい言葉で事業所独自の理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念と併せて理念を具体化した一年の介護目標（転ばぬ先の杖楽しむ人生を送りましょう）を各フロアの壁に掲示している。そして、入職時や毎朝のミーティング時に説明をしている。管理者は日々のケアの中で職員の意識づけを行い理念の共有と実践に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会に加入し、役員も務めている。盆踊り、お茶会、清掃、花火大会など地域の行事に参加して地元の人々と交流している。管理者は地域の親睦会に参加して普段から地域との人間関係を築く努力をし、様々なボランティアとの交流も行なっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者と職員は外部評価の意義を理解し、協力し、意見を集約して自己評価を行っている。評価結果についてはミーティングで検討し改善に向けた具体的な取り組みを行なっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は現在3ヶ月に1回開催しているが、今後は2ヶ月に1回開催する予定である。家族代表・地区代表・地域住民代表・市町村・地域包括支援センターの職員などが参加している。事業所の活動や利用者の状況などの報告と共に、災害時の地域住民の協力体制を依頼するなど、参加メンバーの意見交換も出来てきている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は事業所運営上の問題や現状などを市の担当窓口にご相談、報告を行い、常に連携を取り、市が主催する研修会などにも積極的に参加して交流を深めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	全ての家族は月に1回以上必ず面会に来ている。その都度利用者の日々の暮らしや健康状態、金銭管理、職員の異動などを伝えている。さらに、利用者の誕生月には利用者の近況などを写真入りの手書きで温かみのある「れんげだより」を作成して家族に手渡したり、郵送したりしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時には積極的に意向などの聴き取りに努めている。特に第2日曜日は「家族会の日」として家族から意見を聴く日を設定し家族にも周知している。聴取した意見などはミーティングで全職員に伝えサービスの向上に繋げている。また、意見箱を設置しているが意見は殆ど入っていない。介護相談員の受け入れも行っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	昨年は、全社的に人事異動があり、職員の入れ替わりがあったが、出来るだけ同じ職員が同じユニットで勤務できるように極力異動は少なくし、利用者や職員が馴染みの関係を保つように努力している。やむを得ず異動する時は利用者には十分説明してダメージを防ぐ配慮をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部の年間研修計画を策定していない。職員は自分で研究課題を設定し、3ヶ月に一度、ミーティングを活用して発表を行なっている。また、外部研修の報告は管理者による簡単な伝達に留まっている。外部研修情報を職員に周知して研修への参加を呼びかけているが、今年度より外部研修への参加は全て自己負担になり、参加希望者は少ない。	○	サービスの質の向上には職員のレベルアップが欠かせない。年間の研修計画を策定し、各職員が力量に応じて必要な研修が受けられるように組織としての研修体制作りが求められる。特に、外部研修の機会の確保が望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	富田林市介護保険事業者連絡会（縄なわネット）に参加して勉強会や研修会を通じて他の事業所との交流に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者や家族の不安を軽減し、安心して納得の上サービスが利用できるように、事業所の見学や職員が自宅訪問したり、相談に応じたりしている。出来るだけ事前に利用者の生活状況や好みの食べ物などの情報を得ながら馴染みの関係作りを行なっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩として今までの生き方、苦勞した事、子育ての事など利用者から教えてもらったり、趣味の習字やハーモニカなどを話題にして利用者の経験を共有出来るように努め支え合う関係作りに努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「私の生活史ノート」を活用して利用者の現在に至るまでの生活状況などを把握して記録している。また、家族の面会時に家族、本人の意向を聴取したり、日々の関わりの中で思いや気持ちの把握に努めている。得られた情報は申し送りやミーティングで職員間の共有を図っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	面会時には利用者の現状や思いを伝え、家族のニーズを聴き取る、また、月1回定期的に家族から要望などを聴き取る日を設けており、把握した情報、職員の気づきや意見などを反映させた介護計画の作成に努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、体調やADLの変化に応じて随時見直しを行っている。必要時には家族との話し合い、職員ミーティングで検討して、介護計画の削除や追加を行っている。しかし、一時的に身体拘束の必要が生じた利用者について拘束中のケア、拘束排除に向けた具体的な取り組みを反映させた介護計画は作成されていない。	○	介護計画の見直し後の計画書の整備が十分ではない。身体拘束排除に向けた具体的な介護計画も必要である。今後は、介護計画の目標を下に日々の実践、結果などを踏まえた適切な評価を行いそれらを反映させた新たな介護計画書の作成が望まれる。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者のかかりつけ医への受診は原則家族同行であるが、要望があれば、近隣に限って通院、透析の付き添いなどを行っている。また、行きつけの理美容院、買物など個別の希望にも添えるよう出来る範囲で支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望するかかりつけ医の適切な医療を受けられるように支援している。基本的には家族の同行受診であるが、困難な場合や緊急時には職員が同行することもある。事業所の隣にクリニックがあり、主治医として24時間対応可能で、緊急時にも安心感がある。また、2週間に1回精神科医の訪問診療がある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時に「医療連携体制と看取りの指針」を説明し家族の同意を得ている。利用者の容態変化に応じて主治医から家族、管理者に説明がある。その都度、家族、医師、看護師、職員などと繰り返し話し合いを持ち、方針の確認を行っている。医療と連携を図り方針を共有しながらターミナルケアを実施している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシー保護については年初に全職員と話し合いを行い考え方の周知を図っている。職員は入職時に個人情報保護に関して誓約書を提出している。記録類は利用者、家族、訪問者の目に安易に触れないように、管理室に保管している。また、利用者の誇りやプライバシーを損ねないように日頃から職員の言動には注意を喚起している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課表として一日の大きな流れはあるが、利用者の生活習慣や起床、就寝時間、入浴日など一人ひとりのペースに合わせてその人らしい暮らしが出来るように臨機応変に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	事業所の理念の一つでもある「好みの献立を温かいものは温かく、冷たいものは冷たく」を実践することで食事を楽しめるように配慮している。生協から食材を購入しており急な献立変更は難しいが、2～3日前に希望すれば利用者の好みに対応することは出来る。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は週2回と決めているが、利用者の希望や体調に合わせて入浴出来るように対応している。身体機能の低下した利用者には職員2人で対応し、安心して入浴出来るように支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や「私の生活史ノート」、日常の会話などから趣味、楽しみごとなどを抽出している。習字、ハーモニカ、トランプ、イラスト、洗濯物たたみ、メモ作りなど職員と一緒にいき気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	雨天以外は毎日近隣の総合福祉施設まで外出している。施設の外回りは池や樹木も多くて自然豊かな環境であり、施設の中には市民の広場、プールなどがあり散歩に適している。外出できない利用者はベランダで外気浴を楽しんでいる。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各ユニットの玄関に施錠はしていない。職員はチャイムの音で出入りを確認している。外出傾向のある利用者には散歩をしながら本人が納得するまで付き添って見守り支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力と指導の下、年1回の避難・消火訓練を実施している。消防署との直通電話も設置している。特に2階の利用者の避難誘導については先ずベランダへと消防署の指導を受けている。日頃より地域住民の協力が得られるよう運営推進会議において取り組みを始めている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の生活記録表に利用者一人ひとりの食事・水分摂取量を記録している。一日の水分摂取量は800～1000ccを目安にしている。楽しみながら栄養が摂れるよう喫茶店を開いたり、体調に合わせておにぎり、刻み食、ミキサー食などを工夫し、透析食の管理も行い一人ひとりの状態に応じた支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の生け花が、居間兼食堂には手作りのカレンダー、ちぎり絵、手芸品、行事の写真、縫ぐるみなどが飾られている。ベランダからは池や公園の緑が眺められ、ゆったりと落ち着いた雰囲気である。テレビの脇にはソファや小机、お花を置き、生活感を出す工夫をしている。西日対策には昔ながらのよしずを設置している。利用者はいつもの場所に座り、楽しそうに会話されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの家具や家族の写真、縫ぐるみ人形、カレンダーなどが持ち込まれて、その人らしい生活空間になっている。家族や利用者の希望により床にカーペットや布団を敷いたりしている居室もある。		

※  は、重点項目。